



但馬吹奏楽祭 ～八鹿青溪中学校・関宮学園合同演奏～

6月16日(日)、豊岡市民会館で但馬吹奏楽祭が開催され、八鹿青溪中学校と関宮学園の吹奏楽部の生徒が合同による見事な演奏を披露しました。曲目は「空海の旅(作曲:広瀬勇人)」。重厚感のある音色がたいへん印象的で、会場から大きな拍手が寄せられました。



さて、両校の生徒が合同で演奏会に臨んだ背景には少子化に伴う部員数減少の問題があります。市内では養父中学校と大屋中学校の吹奏楽部も部員数減少のため合同で但馬吹奏楽祭に臨みました。今後は、その傾向が但馬各地、県下各地に広がるのが予想され、新しいかたちの運営を模索していく必要があります。

なお、八鹿青溪中学校と関宮学園の吹奏楽部合同演奏は当面のところ継続する予定です。また、野球部はすでに昨夏より八鹿青溪中学校と関宮学園が合同で大会に出場しており、今夏以降の新チームにおいてもそのまま合同チームを継続することが決まっています。両校の生徒が学校の垣根を越えて友情を育ててくれたらと思っています。

1年生 青谿書院塾

6月18日(火)、1年生が「青谿書院塾」ということで、宿南地区にある青谿書院に出かけて学びました。青谿書院は、郷土の偉人で但馬聖人と呼ばれた池田草庵先生が江戸時代末期に開いた私塾であり、八鹿青溪中学校の校名の由来にもなっていることすでにご存じのとおりです。この日は1年生生徒が池田草庵先生の生い立ちに加えて、学問に没頭した青年時代の生活の様子など詳しい説明を聞かせていただきました。



池田草庵先生の教えを守り

その池田草庵先生の教えの中に、「筆硯整齐(ひっけんせいせい)」があります。「机に向かった時は筆や硯(すずり)をきちんと整える。食卓についたときはきちんと配膳すること。」など身の回りの整理整頓の大切さを説いていますが、八鹿青溪中学校では毎年4月にこの言葉を校舎内に掲示して意識づけをしています。さて、先日の技術の時間、コンピュータ室の前を通りかかると右の写真のようにきちんと揃えられた上履きの列に遭遇しました。こんななにげない所にも池田草庵先生の教えが浸透していることが分かります。きっと池田草庵先生も天国で大きく頷いてくださっていることと信じます。



学習評価、評定について

早いもので1学期も後半になりました。そこで、学習評価、評定の在り方について説明させていただきます。

1. 評価の方法

評価は、「目標に準拠(じゅんきょ)した評価」で行います。「目標に準拠した評価」とは、各教科の目標にどの程度到達しているかを数値化して評価する方法です。生徒の到達度を個別にそれぞれ評価することから、例えば「5」が何人といった人数の制限(相対評価)は設定していません。



2. 観点別評価について

各教科の評価は、

- ① 基礎的・基本的な知識および技能
- ② 思考力・判断力・表現力等
- ③ 主体的に学習に取り組む態度

※令和6年4月25日付 校報「八鹿青溪」第4号参照。

※学校教育法第30条で規定されている“学力の3要素”。

の3観点で、各観点ともA(十分満足できる)・B(おおむね満足できる)・C(努力を要する)の3段階で評価します。この3観点は相互に関連し合っているため、「A・A・C」「C・C・A」のように、特定の観点の評価が極端に良くなったり、悪くなったりすることはありません。

3. 教科の評定について

観点別評価の到達度をもとに、各教科の5段階評定を算出します。

- 「5」… 充分満足できると判断されるもののうち、特に程度の高いもの
- 「4」… 充分満足できると判断されるもの
- 「3」… おおむね満足できると判断されるもの
- 「2」… 努力を要すると判断されるもの
- 「1」… 一層努力を要すると判断されるもの



4. 道徳科(「特別の教科 道徳」) ※深刻化するいじめ問題を背景に平成31年度(2019年度)に教科化されました。

道徳科の学習状況や道徳性に係る(関係する)成長の様子を継続的に把握した上で、数値評価ではなく、個人内評価による文章記述で毎学期行います。ちなみに、かつて道徳科が教科化されるまでは学習の評価を生徒や保護者に示すことはありませんでした。

5. 総合的な学習の時間

学習活動及び評価の観点を記入した上で、学年末に文章記述で評価します。

教師はテスト(中間テスト・期末テスト・課題テスト等)だけで生徒の学習成果を評価するのではなく、日頃の授業の様子やノート点検、作品観察等でも生徒の学力を見取って評価しています。そして、その結果を生徒に返すだけでなく、教師自らの授業を改善していくための材料にもしています。それが、“指導と評価の一体化”の考え方であり、八鹿青溪中学校の教員が大切にしている精神です。つまり、学習評価や評定は生徒のためだけでなく教師のためにも存在しているのです。

